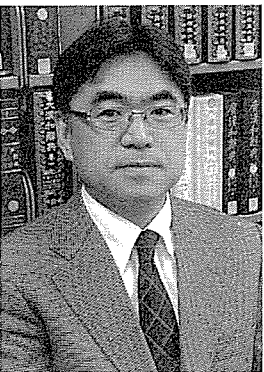


佐々木孝浩

(ささきたかひろ)

略歴

一九六二年、山口県生まれ。九〇年、慶應義塾大学大学院博士課程中退。国文学研究資料館研究情報部助手、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫助手・専任講師・准教授を経て、現在、教授。博士（学術）。著書に、『歌論歌学集成第十卷』（共校注、三弥井書店、一九九九年）、『日本の書と紙―古筆手鑑『かたばみ帖』の世界―』（共編、三弥井書店、二〇一二年）ほか。九五年、第二一回日本古典文学会賞受賞。



〈受賞のことば〉

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫は、東洋の書誌学を専門とする希有な研究所です。日本古典籍を愛する者として、ここに所属できることはこの上ない幸福ですが、学生に書誌学を講じる際にはいつも、この学問が彼らにとって何の役に立つのかという疑問が頭を離れませんでした。それは書誌学とは何かという問いでもありました。答えは幾つもあるでしょうが、私がたどり着いたのは「書物の語学」という認識です。書物を人に諭えると、様々なことが腑に落ちます。他人を理解するには語り合う必要があります。書物との会話を可能にするのが書誌学だと考えるのです。それを教えてくれたのが「大島本源氏物語」でした。この本を通して、テキストを理解するには、それを保存する書物をも知る必要があることに気付きました。それから様々な古典籍と会話を繰り返して、彼らから教わったことを論文にしてみました。それをまとめたのが今回の受賞作です。「大島本」の影印を刊行された角川学芸出版ともゆかりのある賞をいただけたのは、和本達からのご褒美なのかもしれません。とはいえ、研究を続けてこられた幸運は、数え切れない方々から与えていただいたものであることを痛感しております。私は人にも恵まれました。感謝を忘れずに今後も精進を続けたいと思います。